

第9回 ISO/TC249 Plenary Meeting (上海)

2018年6月4日-7日の4日間にわたり、Hotel Equatorial Shanghaiで、ISO/TC249の第9回全体会議および各WG会議が開催された。今回から、ポルトガルとサウジアラビアがメンバーに加わった。日本からは、エキスパートとして計10名(うち日漢協4名)が参加した。〈一覧表参照〉

【全体会議】

- ・議長がDavid Graham氏からShen Yuan-don(沈遠東)氏に交代することが決議された。
- ・国際規格(ISO)とは工業製品のような「モノ」を対象としている。しかし、TC/249では、本来は対象外とみなされる伝統医学に関する教育もScope(適用範囲)に含めるという動きが出てきた。日本としてはISOの趣旨に反するため反対したが、議論の俎上に乗せられることとなってしまった。

【WG会議】

- ・他国からの新規提案書に対し、日局、国内業界に影響がないように訂正の要求をしており、それが問題なく反映されるようになってきている。今回の会議においても、日本の要求は全て了承され、議事録に残された。
- ・日漢協が発案した「顆粒剤の製造と品質管理」については、賛成多数でNP投票を通過(新規提案として可決)し、次のステージに進むことに決まった。今後も引き続き当協会に関連する案件については、協会内で議論し、国内委員会(ISO/TC249 委員会1)を通じて必要な意見、要望を提出する。



漢方版GMPとも呼ぶべき、ISO 19617「伝統薬の製造工程に関する一般要求」の発行を記念しての表彰

左から袴塚先生、新井先生、議長のD. Graham

※ISO/TC249の概要に関しては、[日本東洋医学サミット会議のページ](#)をご参照ください。

参加国 参加人数:	14カ国(オーストラリア、カナダ、中国、ドイツ、イタリア、日本、韓国、 オランダ、ポルトガル、サウジアラビア、スペイン、タイ、アメリカ、 ベトナム) 参加者:228名(公式発表)	
日本参加者:	新井 一郎 先生	(日本薬科大学 教授)
	伊藤 美千穂 先生	(京都大学薬学部 准教授)
	袴塚 高志 先生	(国衛研、生薬部 部長)
	内山 奈穂子先生	(国衛研、生薬部 室長)
	河野 徳昭先生	(薬用植物資源研究センター 室長)
	池田 秀子 氏	(日本健康食品規格協会 理事長)
	浅間 宏志 氏	(日本漢方生薬製剤協会、生薬委員)
	藤原 直樹 氏	(日本漢方生薬製剤協会、生薬委員)
	諸田 隆 氏	(日本漢方生薬製剤協会、国際委員長)
	佐藤 久美子 氏	(日本漢方生薬製剤協会、国際委員)